

「聴く力」

校長 香山 和昭

今日から12月。師走を迎え、今年も残り1ヶ月となりました。4月以降、これまで生徒の皆さんは、様々な場面で持てる力を発揮し、平野中生としての活躍が見られたことを嬉しく思います。ありがとうございます。3年生は、いよいよ進路決定の時期を迎えており、年末年始の期間を含めて、寸暇を惜しんで勉学に励まなくてはなりません。くれぐれも健康に留意し自己の進路実現に向けてベストを尽くしてください。1・2年生は11月後半に期末テストが実施されました。範囲の復習を中心に計画的にテスト勉強に励んだと思いますが、結果はどうだったのでしょうか。テストの点数や結果に一喜一憂しがちですが、むしろ準備、取り組み方はどうだったのかを振り返りましょう。課題を見つけ、新たな目標を設定し、準備・練習して、鍛え、高めることで、「**Much Better** (さらによりよく)」を実現させてください。

さて、今年台風19号などによる自然災害による被災した地域が全国各地で数多く出ました。埼玉県でも河川の氾濫等で甚大な被害がもたらされました。被災地の復興を助けるものの一つとして、ボランティアの力が欠かせないものとなっています。テレビなどで目にするボランティアの働きは、土砂の撤去、瓦礫の運搬や家屋の片づけなど、体を使うことが多いようです。

他方、「傾聴ボランティア」と呼ばれるものがあります。非常時のもとで被災者の方は、様々な精神的苦痛を被ります。当時の状況やその怖さなどを聴いてもらうことで苦痛が緩和されることがあるのです。

自身の辛さを聴いてもらうことで、「わかってもらえた」「共感してもらえた」という心のよりどころができ、苦痛が和らぐ効果はかなりあるとのことです。

辛い体験は被災に限らず、日々の生活の中で人間関係のトラブルや様々な悩みなど誰にでもあるものです。もし困っている友達がいたらその人に寄り添って真剣に聴いてあげることが大切です。話を聴いてあげることで友達はほっとできるし、そこから信頼関係も芽生えていきます。

辛い体験をした人に限らず、人は他者から理解されることを欲しています。自分が他者から理解されたいと思うと同時に他者も同じように思っているのです。他者への理解を深めることは、周囲との人間関係をよりよくしてくれます。その第一歩は「相手の話に耳を傾ける」という思いつきから始まります。